

日本の実力者たち（5）

前は江戸幕府15人の将軍でした。順番に15人言えますよね？

江戸幕府の場合、15人の将軍がそれなりに活躍するわけですが、その将軍を補佐した優秀な人材も多く輩出しました。また、実際には将軍が名ばかりのため、老中や大老といった人たちが活躍することも多くなります。

従って、江戸時代の場合、将軍の周辺にいた実力者もおさえる必要があります。彼らの肩書きは、多くの場合、「老中」「大老」「側用人」「侍講」です。肩書きと共に、どの将軍の時に活躍したのか、業績は何か、といった点をしっかりと確実にインプットしていきましょう。

ちなみに、「老中」は幕府の政務を総括する常置の最高職で、譜代大名の中から4・5人が任命され、月番制で職務にあたり、町奉行や勘定奉行・大目付などを支配しました。

「大老」は幕府の最高職ですが、常置ではなく、非常時に老中の上に置かれました。10万石以上の譜代大名から選ばれました。

「側用人」は将軍の近くに控え、将軍の命令を老中に伝え、老中の上申を将軍に伝える役職です。

「侍講」は天皇や将軍などに学問を講義する先生ですよ。

江戸幕府の老中・側用人など＝18人

- (1) 徳川家康に仕えた南禅寺の僧侶で「黒衣の宰相」と呼ばれた。武家諸法度（元和令）や禁中並公家諸法度を起草した。
- (2) 藤原惺窩の弟子で、家康に仕え、さらに4代将軍家綱の代まで将軍の侍講として、また幕政にも参与した儒者。
- (3) 幼少の将軍家綱を補佐して幕政に重きを為した会津藩主。山崎闇斎に学んで朱子学を信奉し、文治政治による藩政の刷新を図った。
- (4) 綱吉の将軍擁立に功があり、大老となった人物で、1684年に江戸城中で若年寄稲葉正休に刺殺された。
- (5) 綱吉の小姓から側用人になり、綱吉の意を受けて文治政治を推進し、後には大老格となった。
- (6) 将軍綱吉の時代に、勘定吟味役を経て勘定奉行に就任した。財政打開のため1695年に元禄金銀を改鑄した。
- (7) 6・7代将軍の侍講で、正徳の治を行った。『読史余論』などの歴史的研究や『西洋紀聞』など蘭学の先駆的業績でも有名である。儒者木下順庵の弟子である。

- (8) 6・7代将軍の側用人で、新井白石と共に正徳の治を推進した。
- (9) 8代将軍吉宗に登用され、山田奉行から江戸町奉行に抜擢され、後に寺社奉行になった。
- (10) 将軍家重の小姓・御用人から出世し、田沼時代を現出させた老中。商業資本と結んで積極的に産業振興策を採ったが、賄賂政治で不評を買った。子の若年寄田沼意知が江戸城内で刺殺された後、将軍家治の死と共に失脚した。
- (11) 将軍吉宗の子、田安宗武の子で、白河藩に養子となった。将軍家斉の時、老中首座となり、寛政の改革を断行した。また『宇下人言』などの著書もある。
- (12) 浜松藩主で、老中首座として天保の改革を実施した。厳しい統制政策を採ったが上知令の失敗により失脚した（ただし、後に老中に復帰）。
- (13) 福山藩主で老中首座。ペリー来航後、幕政の責任者として外交方針を指示した。諸大名・幕臣にも方針を諮問して挙国一致政策を採り、公議世論の政治を行った。和親条約締結後は、公武協調を図り、安政の改革を実施した。
- (14) 佐倉藩主で老中首座。1857年にハリスと日米修好通商条約を協議し、翌年上京し条約の勅許を求めたが失敗し、失脚した。
- (15) 彦根藩主で大老。1858年に孝明天皇の勅許を得ず通商条約に調印し、将軍継嗣問題では南紀派として徳川慶福を推挙。朝廷や反対派の大名の家臣などを弾圧する目的で安政の大獄を断行したが、桜田門外で暗殺された。
- (16) 水戸藩主。人材に登用した藩政改革を断行。ペリー来航当時、幕政に参画した。将軍継嗣問題では一橋派として活動したが、安政の大獄で蟄居を命じられた。最後の将軍徳川慶喜の父である。
- (17) 越前藩主。一橋派として活動し、安政の大獄で隠居謹慎となった。1862年の文久の改革では政事総裁職に任命された。
- (18) 幕臣で、海軍伝習所に学び、日米修好通商条約の批准書交換のため、咸臨丸で太平洋を横断した（艦長である）。1868年、戊辰戦争のさなか、西郷隆盛と会談し江戸城無血開城を実現させた。

(1) 金地院崇伝	(2) 林羅山	(3) 保科正之
(4) 堀田正俊	(5) 柳沢吉保	(6) 荻原重秀
(7) 新井白石	(8) 間部詮房	(9) 大岡忠相
(10) 田沼意次	(11) 松平定信	(12) 水野忠邦
(13) 阿部正弘	(14) 堀田正睦	(15) 井伊直弼
(16) 徳川斉昭	(17) 松平慶永（春嶽）	(18) 勝海舟（義邦）